

香港におけるギフテッド教育の歴史・政策・課題

合 田 美 穂*

Gifted Education in Hong Kong: History, Policy and Issues

GODA Miho

Abstract: Although the concept of gifted education can be traced to ancient Greece, it has become the key member in national education among advanced nations only in the last few decades. Compared with Europe and the US, Asia is far leg behind in implementing gifted education. Having launched the gifted education about 2 decades ago, Hong Kong is one of pioneers in Asia in this respect. Regardless of the efforts by the government and NGO and the interest among parents and media, gifted education in Hong Kong has limited success. What are the characteristics of and problems in the gifted education in Hong Kong? How can Asian nations learn from Hong Kong experience? There are the issues addressed in this study.

1. はじめに

「ギフテッド教育」(gifted education)の概念は、古代ギリシャにまで遡ることができるが、グローバル化の潮流の下、ギフテッド教育が、先進国における教育政策に一般的に組み込まれるようになったのは、最近10年のことである。欧米諸国は、ギフテッド教育においては、豊富な経験を蓄積しているが、アジア各地は、まだ初歩段階にあると言える。香港は、近年、アジアでは最も積極的にギフテッド教育を推進している地域の1つであり、政府、民間機関、メディアおよび保護者のギフテッド教育に対する関心も非常に高いが、最近20年間におけるギフテッド教育の実績はさほどのものではない。本研究は、香港のギフテッド教育を研究対象として、その特色、内在する問題、香港のギフテッド教育を通じたアジア各地のギフテッド教育に対する啓示とは?といった課題に対して、初歩的な考察をおこなったものである。

2. 香港におけるギフテッド教育のはじまり

戦後から1960年代にかけて、香港では、中国大陸からの流入人口が急増し、香港の出生率は最高峰に達した。当時、香港政府は、すべての子どもたちに初等および中等教育を受けさせるべく、基本教育の普及に積極的に力を入れた。1970年代および1980年代に入ると、経済の急成長および人材の需要にともなって、香港政府は高等教育および職業訓練を広く推し進めるようになった。当時の香港は、欧米諸国で起こっていたギフテッド教育に対しては、さほど認識を持っておらず、また、ギフテッド教育に資源を投入する余裕さえもなかった。このような状況から、1980年代以前の香港では、ギフテッド児であろうと、問題児であっても、彼らは分別されることはなく、メイン・ストリームの教室において、ほかの子どもたち同様に、基本的な教育を受けていた。当時、ギフテッド児は、才能を見出されることはなく、時には問題児として見なされることすらあった。

1987年、香港では「神童輝事件」が一世を風靡した。暗算が得意な7歳の小学生である羅文輝少年が、

*香港中文大学歴史学系及日本研究学系兼任助理教授

テレビ番組「歓楽今宵」に出演し、得意の「計算」を披露した。彼の計算は電卓よりも速かったために、各メディアは競ってそのパフォーマンスを報道し、一時美談として伝えられた。しかし、この算数の天才は、その才能をうまく教育の場で伸ばされることはなく、あちらこちらでパフォーマンスを要求され、結果として算数に対する興味を失い、学業も順調に続けることができず、後には、ブルーカラーの労働者となった¹⁾。この件をみても、当時の香港では全くギフテッド教育が存在していなかったということがわかるのである。

社会におけるギフテッド教育に対する必要性の高まり、および政府の教育投資に対する資源の投入によって、香港政府は1990年代に入ってから、正式にギフテッド教育を開拓することとなった。1990年、香港教育統籌委員会は『第四号報告書』を發布し、ギフテッド児の定義および教育サービスの需要について検討した。これによって、香港教育局(旧香港教育署)は、小中学校においてギフテッド教育を開始することになり、香港のギフテッド教育の初歩の発展に向かって一歩前進することになったのである。

3. ギフテッドの意義

ギフテッドの定義とは、どのようなものであるのだろうか。実際には、香港人の多くが詳細を知らないのである。香港の教育学者である鄧澍明博士によると、崇真小学校および幼稚園が、2005年11月中旬に実施した調査報告によると、1,009名の被調査者である保護者のうち77%が、ギフテッド児の特質について少しの知識しか持ち合わせておらず、16%の保護者は完全に理解していなかった。また、75%の保護者がギフテッド児は作り出すことが可能であると考えていた。同校の唐玉芬校長は、大部分の保護者が「ギフテッド児」という字面を見て想像するだけで、実際には育成方法を間違えたり、育成の機会を失ってしまったりしていると指摘している²⁾。

ギフテッドの基準についていえば、従来の基準では知能指数が130を超えている場合をギフテッドとし、150を超えるものを特別ギフテッドとしていた。しかしながら、現在では、知能指数だけがギフテッドの基準を満たす唯一のものではなく、ある範疇(例えば、音楽、絵画、話術、運動、数学、記憶力、創意、分析、リーダーシップ、機械技術など)において、超人的な能力を持っている場合、知能指数が130に達し

ていなくても、ギフテッド児としてみなされるようになっている。香港では、1990年の教育統籌委員会による『第四号報告書』において、多元化した才能をギフテッドとするという方針が示されており、該報告書では、実際にアメリカ連邦教育局によるギフテッドの多元的な定義が引用されている。

ギフテッド児の発掘方法についていえば、香港政府の指南によると、ギフテッド児を鑑別する方法は、子どもの知力検査の結果だけではなく、教師、保護者が、各方面において、子どもにどのような潜在能力があるかということ、様々な角度からみる必要があるとしている。例えば、子どもの興味、学習方法、態度、成績などを観察し、そこから、子どもの個別学習における需要や、発展可能な領域について理解することが求められている。アセスメントも、段階的かつ多面的なものである必要があり、単一の試験や1回きりの鑑別をするだけにとどまってはならないとしている。学校では、教師によるグループが作られ、子どもの推薦業務や、子どもがギフテッド児かどうかを鑑別する業務が任されている。そして、ギフテッド児としての育成のために、選抜した子どものリストを政府に提出することとなっている。

4. ギフテッド教育の原則

香港教育署は、ギフテッド教育の発展のために、以下に述べる「ギフテッド教育の原則」を示している³⁾：

- (1) ギフテッド教育は、優れた教育の一環であり、学校は、勉強で立ち遅れている子どもに対する支援を実施するのと同様に、ギフテッド児の基本的な学習面の需要に対しても、適切に対応しなければならない。
- (2) ギフテッド教育の普及を目指す必要性を認識すること。ギフテッド教育では思考を啓発し、想像力を養うことを重視しており、また自己学習が奨励されている。それらはまた、メイン・ストリームの教室の中でも広く推し進められるべきであり、学校は、子どもの多元的な才能を伸ばすための学習環境を整える必要がある。
- (3) ギフテッドの定義は、広くかつ多元的な知能の概念が採用されるべきであり、学業成績という限られた範囲のみを対象として、ギフテッド児が選ばれべきではない。
- (4) 子どもの多元的な知能を伸ばすことは、優れた

基礎教育の主要な目標であり、また、全ての学校がこの使命を負わなければならない。学校は、多元的で系統だった教育活動を提供し、異なる優れた能力を持つ子どもを伸ばすことに力を注がなければならない。

(5) 子どもを選別する基準と、校内外で開講される課程とのバランスが取れている必要がある。選別がただ単に、ラベル付けに終わってしまってはいけない。学校は関連するガイドラインを参考にして、ギフテッド児を選抜し、学校によってアレンジされた、子どものための特別活動（授業以外の特別プログラム）に、ギフテッド児を参加させなければならない。

(6) 子どもを伸ばすための活動は、能力が比較的高い子どもの個別的な学習ニーズに対応していなければならない。こういった活動に参加する子どもにはあえて「ギフテッド」というラベルを貼る必要はない。

(7) 異なる人々あるいは機構が提供する資料を収集して、学校はギフテッド児の潜在能力を十分に伸ばすことを支援しなければならない。

上述の原則は、以下の3点にまとめることができる：1点目は、多元化である。子どもの異なる優れた能力を重視し、対象が、学業成績が優位である子どもだけに限られていないことである。2点目は、普及化である。全ての小中学校がギフテッド児の選抜および育成に関わっていることである。3点目は、非ラベリングである。できるだけ「ギフテッド」というラベルでもって、子どもをラベリングしないようにしていることである。

5. 香港におけるギフテッド教育の実施状況

香港政府は、1990年には既に、ギフテッド教育の原則に関する制定を行っていたが、それが軌道に乗ったのは遅かった。1990年代に、ギフテッド教育が小学校において実験的に計画され、2000年以降、中学校において実施された。

教育署は、1994年から1997年の4年間、19校の小学校において「学業成績優位児童のための学校主導の課程」を開講した。皮肉なことに、この計画は、成績が優位な子どもを選抜して、特別のエリート教育を施すものであり、ギフテッド教育の多元化の大原則に反したものであった。選抜された子どもの中には、ギフテ

ッド児もいたが、ギフテッド児であったとしても、選抜されるとは限らなかった。とはいえ、教育署は、この実験によって、学校主導の課程が、ギフテッド児に対してよい面の効果を生み出していることだけではなく、他の子どもにとっても有益になっていることや、教師が授業態度を改善し、教学方法および教学のテクニックをよりよいものになっていることが確認できたということを示している。学校側は、ギフテッド教育における2つの大きなモデルを推進することとなった：1つ目は、全員参加型の授業である。教師が、リーダーシップ能力や創意思考などを含め、ギフテッド教育の要素を正規教育の中に取り入れることを推進した。それと同時に、グループ分けによる教学をおこない、そこから、子ども特質や能力によって、グループごとに特化したトレーニングを提供した。2つ目は、選抜方式である。学校で、エリートを選抜し、彼らに授業外において系統だったトレーニングをおこなった。このほかに、教育署は、『第四号報告書』での提案に従って、1995年に「馮漢柱ギフテッド教育センター」を設立し、それをギフテッド教育の中心的な機構と位置づけた。

2000年以降、香港は、ようやく中等教育においても、ギフテッド教育を本格的に実施することになった。教育局は、2001年に「特別ギフテッド児育成支援計画」を打ち出し、香港全域の中学校に対して、条件に合う生徒を選抜して、該計画の育成メンバーとして推薦するように通達した⁴⁾。具体的な選抜方法については、中学校が、教育局が作成したガイドラインに従って、教師を通して適切な生徒を選出するという方法である。保護者および生徒もまた、学校に対して自己推薦することも可能であり、最終的に学校によってリストが作成され、教育局ギフテッド教育部門に提出されるのである。

2001年から2008年の7年間において、約3百の中学校から約7千人の生徒が、該計画のメンバーとして選出された。「学業成績優位児のための学校主導の課程」とは異なって、該計画の選別基準は、学業成績だけではなく、知能検査の結果や、体育、芸術、音楽および科学技術の性能も選考の要素として取り入れられていることから、多元的なものを盛り込んだ方針であることが分かる。該計画に参加する中学生は、才能によって、それぞれ「卓越リーダーシップ才能育成」、「卓越数学育成」および「卓越科学育成」の課程で学ぶこととなっている⁵⁾。このほか、該計画は、2005年にもまた、人文教育分野に関係した育成活動である、

人文分野に秀でた生徒のための「卓越人文科育成」計画を打ち出した。該計画によって提供される課程の大部分は無料である。個別の大学による単位課程のみについては、関連する大学が受講料を徴収しているが、大学にもまた減免制度が設けられており、低収入家庭のギフテッド生徒も優遇を受けられることになっている⁶⁾。ギフテッド生徒はまた、海外で実施されているコンテストにも派遣されている⁷⁾。2001年以降、香港のギフテッド生徒は「中国西部数学オリンピック」、 「中国数学オリンピック」、 「国際数学オリンピック」、 「女子数学オリンピック」、 「国際物理オリンピック」、 「珠江三角洲物理オリンピック・コンテスト」、 「アジア物理オリンピック」などの国と地域を越えた国際学力大会にて、芳しい成績を上げている⁸⁾。

該計画では、ギフテッド児の選抜、育成および支援のほか、多くの高等教育機関あるいは関連する機関が協働して、ギフテッド児の保護者およびギフテッド児のクラス担任を対象とした、多くの異なる種類の育成講座を開催している。例えば、「特別ギフテッド児育成支援計画」では、定期的に異なるテーマと規模にて、教師に対する育成講座を開講しており、毎回の講座は合計10~20回を1タームとし、6~9ヶ月の期間で実施されている。教師は、系統的かつ全面的に、ギフテッドの理念や策略を掌握することができ、学校において、カリキュラムを作成する際に学んだことを生かすことができる⁹⁾。このほか、ギフテッド児の保護者のためにも様々な講座が開講されている。例えば、「情緒障害を知る」、「ギフテッドの子どもおよび香港のギフテッド教育を知る」、「子どもが素晴らしい人生に向かって歩むことへの手助け」、「どのようにして子どものコミュニケーション能力を向上させるか」および「どのようにしてストレスを動力に変容させるか」などである。当初の計画では、政府が様々な機関を指定して、共催を求めていたが、香港ギフテッド教育学院（慈善家および政府がそれぞれ1億香港ドルを出して設立）が、2008年8月に成立してからは、該学院が計画の訓練センターとして委任され、10~18歳のギフテッド児に対して、関連する教育サービス、育成課程、選抜活動などを実施している。

6. 香港におけるギフテッド教育の盲点

香港におけるギフテッド教育は、近年、発展を続けているが、不完全な部分もまた浮き彫りになっている。第1に、推薦制度の問題がある。現在の制度で

は、学校によってギフテッド児が決定されて選抜されるが、学校側にこの方面における専門的な知識が欠如している場合、被推薦者の多くは成績上位者に偏り、ギフテッド児であるとは限らないことである。ギフテッド児は発掘されないまま、問題児として扱われることさえもあるのである。第2に、育成の問題がある。香港では、ギフテッド児を育成する専門的な学校や人材が欠如しており、「特別ギフテッド児育成支援計画」の下で提供されている課程は短期であり、また基礎を重視したものであるために、本当の意味でギフテッド児の潜在的な能力を十分に発揮できないままになっている。政府、大学および教育学院のギフテッド教育に対する系統だった協働も欠如している。第3に、支援の問題がある。香港政府は、相対的にはギフテッド教育を重視しているが、学習障害に対する支援の不足は深刻であり、「錦上に花を添える人は多いが、雪中に炭を送る人は少ない」という諺そのものであるといえる。ここでいう問題は、ギフテッド教育と学習障害の支援は、実際には無関係ではなく、「風馬牛も相及ばず」とはいえないのである。多くのギフテッド児は、情緒および行動に問題を抱えている。中には学習障害の支援を受ける必要が出てきたことをきっかけとして、初めて、隠れていた潜在的な素質を見出されて、発揮できた子どももいる。現在の制度の下では、「隠れたギフテッド児」が日の目を見ることは難しいのである。

香港ギフテッド児の保護者が組織する「香港ギフテッド児の親の会」では、メンバーが互いに自分のギフテッドの子どもについての体験談を語り合っている。興味深いことは、多くの保護者およびギフテッドの子どもたちが、苦勞の限りを尽くしているということである。これは、香港におけるギフテッド教育が不足しているということを反映している。以下に述べるものは、親の会の公式ホームページにて紹介されている2つの典型的なケースである¹⁰⁾：

ケース1：1人の小学生の男の子の話であるが、教師が何度も同じ課題をくり返し説明することに対して、つまらなく感じ、教室内で、クラスメート目掛けて輪ゴムを飛ばしたり、教師の頭上にも飛ばしたり、廊下に足を出したり、同級生を倒して紐で縛ったりといったイタズラをし始めるようになった。そうでなければ、教師に文句を言ったりしていた。その子どものイタズラは、次々と出現し、とどまることを知らなかったが、それらに対しては、罰則、お

仕置き、親の呼び出しという形で対処された。小学校3年生になってからは、彼の行動は更にひどくなり、何事も自分の意思のおもむくままに行動し、校長は、子どもが「多動児」であることを疑って、特殊教育部の心理アセスメント部門に依頼して、子どもにアセスメントを受けさせたところ、その結果は「ギフテッド児」であった。しかし、この「ギフテッド」のラベリングも、子どもと学校の関係を改善させることには役に立たず、教師はその子どもを愚劣な児童であると決め付けて、子どもに対して格別厳しく対応した。また、クラスメートもその子どもと一緒にいることを嫌がって、子どもは日に日に意気消沈し、孤独になり、結果として、小学校4年生の2学期になって、停学という処罰が下され、転校を余儀なくされた。

ケース2：「おはよう、先生！」その子どもは賢く、常に相手に明るく挨拶をしていた。「彼は、こういう感じの子どもで、話をするのも上手だけれど、彼との付き合いが長くなるにつれ、彼がどれだけやんちゃで、どれだけ大変かということがわかってきます。」と男の子の母親は訴えていた。男の子の成績はかなり悪く、宿題をする時も座ってられず、すぐに水を飲みに行ったり、テレビのスイッチをつけたりして、毎日の宿題の大部分は、母親が横でハンガーを手にして監督しながら、なんとかやったりやり終えることができるという状況であった。学校の状況は、当然ながら家より悪く、授業中に集中しない、頻繁にイタズラをするなどで、新学期が始まってからの1学期の間に、母親は3回も教師に呼び出されたことについても、悩んでいた。専門家によってアセスメントが行われた後、更に母親への聞き取りも行なわれた。そこでは、子どもは生まれた時から聡明で、1歳時には簡単な文を話すことができ、1歳半になると親が食事を口に運ばなくても自分で食べることができ、自分で着替えもでき、靴下も履けたりするなど、自分で様々なことができるようになっていたこと、このほかにも、常に元気で、幼児期には昼寝もせず、毎晩父親が夜勤から帰ってくるのを待ってから就寝し、夜中の12時に寝ることも頻繁で、翌朝にはきちんと8時に起床し、しかも疲れを見せないということなどが語られた。この母親へのインタビューからは、母親は子どもを愛くるしく思っていると同時に、また深く悩んでいることも読み取れた。賢く活発なことを愛してやまないが、その一方で子どもの行為における諸問題につい

ては常に悩みの種となっていたのである。専門家によるアセスメントおよび母親へのインタビューからの結論は、子どもにはギフテッドの素質があるものの、過度の多動であることから、まず、教室内のルールを破ったり、学習を妨げたりするような問題をコントロールするための矯正教育が行なわれることとなった。同時に、母親が全面的に子どもの長所および短所を受け入れられるように、母親に対しても、子どもへの対応を改善するための指導が実施された。幸いだったのが、クラス担任が思いやりのある前向きな教師であったことである。専門家、母親、担任の3者からの適切な指導の下で、子どもの問題は大きく改善され、子どもの持つ素質が埋もれてしまわずにすんだのである。

香港のテレビ局が2005年に「新聞透視」というシリーズの中で、「資優之憂」という特別番組を放映した（放映日時は2005年6月25日。無線放送）。番組中のインタビューを通して、香港におけるギフテッド児には支援が欠如していること、一部のギフテッド児には行為および情緒の問題が生じていること、保護者や教師はこういった問題に対する対処方法が分からないことなどが指摘されていた。

ギフテッド児は完璧ではなく、彼らは一部の領域にのみ長けている一方で、苦手な領域も持ち合わせている可能性がある。例えば、数学の天才であるといわれるギフテッド児であっても、読み書きに障害がある場合もある。このほか、彼らの中で情緒および行為の問題が存在する比率は、一般の児童に比べると高いと指摘されている。多くのギフテッド児は、学業成績およびコミュニケーションといった方面でうまくいっておらず、中には挫折感を味わったり、うつ状態になったりする子どもさえいるのである¹¹⁾。更に明確なことは、ギフテッド児の特徴と、発達障害がある人たちの問題が類似していることである。多くの発達障害（注意欠陥／多動性障害、アスペルガー障害など）がある子どもと同様に、多くのギフテッド児は、コミュニケーションをとることが苦手で、興味の範囲も非常に狭いのである。例えば、周囲のクラスメートが、興味なさそうなそぶりや不愉快そうな態度を見せているにもかかわらず、その空気を読むことはなく、自分が興味のある話を延々と話し続けたり、クラスメートが話すことをきちんと聞かずに、いきなり話題を変えたりすることなどもよくある。教育学者の鄧澍明博士は、一部のギフテッド児は、成績が上位であるとは限らず、

彼らには学習障害 (LD), 注意欠陥/多動性障害 (AD/HD), アスペルガー障害などといった問題があることを指摘している。こういった問題に対して, 適切な対応や支援が不足していれば, 成績および行為の面において, 容易に問題が生じ, 「知能は高いが, 達成率は低い」という問題児を作り出してしまうことになる¹²⁾。

ギフテッド教育に関する研究によると, ギフテッド児には主に以下のような特徴があるとされている (全てのギフテッド児が以下の特徴を持ち合わせているわけではなく, 以下のものは参考に過ぎないため, ギフテッドの特質を識別するものとして, この表を使用することはできない)¹³⁾。:

〈認知能力〉	〈情緒およびコミュニケーション〉
言語表現能力が強い	多動傾向, 活力がある, 敏捷性がある, こだわりがある
思考回路が早い	積極的である, 楽観的である
常識的である	公平で公正に物事に取り組む
抽象的な事物と概念を掌握している	熱心に物事に取り組む, 責任感が強い
好奇心が旺盛, 探究心が強い	負けず嫌い
創造力が豊かであり, 強い	年上の友人と友達になりたがる

上の表から, ギフテッド児が, 情緒およびコミュニケーションの面において, 一種のマイナス面の特徴を有していることがみられる。ギフテッド児を育成し, その潜在能力を発揮させることだけでなく, その情緒およびコミュニケーションの問題に対する支援も非常に重要になってくる。2009年3月, 香港のギフテッド教育学院は「二重特殊ギフテッド児を探す計画」を打ち出した。「二重特殊ギフテッド児」というのは, 高い知能を持つギフテッド児であるものの, 同時に特殊教育が必要とされると評定された子どものことである (例えば, 自閉症, 学習障害, 注意欠陥/多動性障害, アスペルガー障害等)。香港では, 現時点では, 社会における二重特殊ギフテッド児に対する理解および支援は, まだまだ改善が必要とされている。「二重特殊ギフテッド児を探す計画」は, 二重ギフテッド児およびその家庭における需要に着目して, 一連の研究および支援が展開され始めたところである。該計画のスローガンは, 「もし, あなたの子どもが二重特殊ギフテッド児なら, 我々はあなたを必要とします! 『二重特殊ギフテッド児を探す計画』に参加す

れば, 関係資料が手に入ります。あなたがたのために, 最適な支援を提供いたします!」である¹⁴⁾。香港のギフテッド児に対して, 適切な支援が不足している問題に対応するために, 最近では, 教育学者や心理学者など専門家が, 個人的な立場から, 行為および情緒に問題があるギフテッド児に対して, 支援を開始している¹⁵⁾。現時点で, こういった援助を得られることができているのはほんのひと握りでしかなく, この方面での需要を満たすことは, 現在の香港におけるギフテッド教育の重要な課題の1つとなっている。

比較的遅い段階で, ギフテッド児としてみなされた子どもの多くは, 往々にして情緒あるいは学習障害等の問題があるために, 初めてアセスメントを受けているケースが多いが, それまではほとんどが問題児として誤解されていた。一例であるが, 崇真小学校および幼稚園では, アスペルガー障害があるギフテッド児が見つかった。その児童は知能が高いが, 文字の理解能力が低く, 識字障害があると疑われていた。専門家は, 「一般の保護者および教師はこういった特徴についての知識がないため, 子どもが特に扱いにくい子であると思ったり, 適切な躰がなされていないのではないかと誤解してしまうのだが, このタイプの子どもに対しては, 頭ごなしに罵声で叱ったりすべきではない。また, そういう対応をすれば, 子どもが更に興奮したり, 反抗的な態度をとったりして, 悪循環を招くことになる」と強調している¹⁶⁾。しかしながら, 一般的には, 香港における多くの子どもの保護者や教師をはじめとして, 香港社会では, ギフテッド教育および学習障害に対する支援については, 知識が不足しているために, 「ギフテッド児は英才教育によって作り出される」とか「行為や学習の障害は家庭における躰不足である」といった誤解や偏見が生じている。

7. 香港とアジア各地のギフテッド教育の比較

欧米と比較すると, アジアのギフテッド教育は遅れているといえるが, アジアのみについて言えば, 香港は, ギフテッド教育に対しては比較的積極的である。アジアにおけるギフテッド教育は, 以下の2つの模式に大きく分けられる: 1つ目は, 政府主導型 (中国など) であり, 2つ目は民間主導型 (日本など) である。

中国は, アジアの中では最も積極的にギフテッド教育を行っている国家であり, これまでずっと国家が計画し主導してきた。1970年代から, 子どもは小学校

および初級中学校の中で、「超常（中国大陸におけるギフテッドに対する呼称）」であるかどうかを鑑別され、ギフテッド児は、重点学校¹⁷⁾の中にある「超常班（ギフテッド・クラス）」に集められて、トレーニングを受けることになっている。彼らは一般的に15歳未満であり、大学入学試験に相当する統一試験を受ける必要はなく、重点大学¹⁸⁾の「少年班」に送り込まれる。ギフテッド児は、「天の寵児」と言われるほど優遇されており、教育費は国家によって全額負担されている。しかしながら、職業選択の自由は許されず、卒業後の進路は国家によって決められるのである¹⁹⁾。中国大陸におけるギフテッド教育は、理数系だけではなく、体育や芸術方面も非常に重視されている。

日本における教育についていえば、政府はメイン・ストリームにおける教育を重視している。日本の教育は、平等主義や「一視同仁」という考え方が強く反映されているといえる。教育社会学者の恒吉僚子は、著書の『人間形成の日米比較－かくれたカリキュラム』において、以下のように述べている：「生まれつきの能力差は存在しないか、たとえ存在しても努力や環境などの後天的なものに比べれば問題にならない」という考えが、日本人の間では一時代前から強いとされてきた。これは、能力平等観などと呼ばれ、日本人の特徴だと言われている。私が観察した日本の学校でも、少なくとも建前としては、教師は一貫としてこの立場をとっていた²⁰⁾。この種の思考は、ギフテッド教育の発展を妨げるものであるということが、一部の研究者から指摘されている。その一方で、とりわけ発達障害があるギフテッド児について言えることであるが、人よりも秀でている得意分野を更に伸ばすことに力を入れるよりもむしろ、問題になっている部分（例えば多動、衝動性、情緒やコミュニケーションの問題など）を改善し克服することによって、社会的なスキルを身につけることや日常生活で自立できることに焦点を当てることの重要性を強調する研究者もいる²¹⁾。文部科学省は、これまで、ギフテッド教育の実施に対して、積極的な態度をとってこなかった。ギフテッド児の中で、更に自らの得意分野を伸ばしたいという子どもは、公立学校において実質的な支援を受ける機会がないために、民間の学校や機関に頼っている。「知能研究所」は、日本における民間の機関の中では代表的なものあるといえ、その設立は1965年にさかのぼる。この機関は、設立以来ずっと、ギフテッド児のためのコースを開講し、指導を行ってきた²²⁾。

香港のギフテッド教育は、上述の2つのモードが混同

する形となっており、「官民協働モード」と言ってもいいであろう。基本的には政府主導のようにみえるものの、民間組織も重要な役割を担っており、官民が協働することによって、ギフテッド教育を進めているのである。

8. 課題および展望

香港のギフテッド教育は、十数年の歴史を有し、発展を遂げてきた。現段階では、基本的に軌道に乗っていると見える。しかしながら、政府は十分な資源を投入してはいるものの、宣伝教育および政策研究がそれぞれ不足しているため、ギフテッド児がそれを有効に使うことができないでいる。このような状況の下で、政府および民間機関が、ギフテッド児およびその保護者に対して、様々なレベルの支援を行っているという現実がある。香港のギフテッド教育が、現在直面している課題および今後の展望を以下に述べたいと思う：

- (1) 大学におけるギフテッド教育に力を入れる必要性：これまで、香港のギフテッド教育は小中学校に限られており、大学におけるギフテッド学生のトレーニングは不足していた。香港科技大学が、発明家として一躍有名になった天才少年陳易希を受け入れ、前例がないために、前学長である朱経武氏自らが指導しているようなことを続けてはいけないう²³⁾。また、浸会大学のように、9歳の数学の天才少年である沈詩鈞を受け入れたものの、その後、彼のために特別なコースをセッティングすることもなく、そのままにしているような結果になっていけないう。大学側がギフテッド児を受け入れることを決めたならば、中途半端な受け入れ方はせずに、中国大陸における豊富な経験を参考にすべきである。
- (2) 民間機関との提携の有効な利用：香港では、ギフテッド教育の支援に積極的な民間機関が数多く存在しており、更なる政府との協働を考えるべきである。それらの機関は、研究、アセスメント、矯正教育、学習支援において、積極的な役割を果たしている。実際に、「香港ギフテッド教育学院」によるトレーニングの一部は、民家機関が委託されているのである。民間機関がギフテッド教育の推進をどのようにおこなっているかというのは、日本の状況を参考にする価値があるといえる。

(3) ギフテッド児の行為および情緒面に対する支援の重視：これまで、ギフテッド教育は、得意分野を伸ばすことのみが偏重されており、苦手な部分についての支援は軽視されていた。少なくないギフテッド児は、行為および情緒の面において、適切な支援が得られなかったために、持っていた才能を開花させることができないまま大きくなり、その結果、「知能は高いが、成功率は低い」という子どもが数多く出現した。こういった方面では、欧米諸国が積み重ねてきた成果を参考にすべきであるといえる²⁴⁾。

追記：

このペーパーの加筆修正を行っていた2009年末、興味深いニュースが入ってきた。2009年12月30日、香港浸会大学において、香港ギフテッド教育学院の1351名の新生歓迎式典が開催された。2009年度は、227の中学から1800名がギフテッド学院入学を申請し、申請者数は前年度から4割増の歴代最高記録となった。この年、香港ギフテッド教育学院は、香港の大学との提携プログラムが増やし、中学生は大学入学後、一部の単位の履修が免除になるような規定も作られた。各中学からのギフテッド教育学院への推薦人数は最高10名と規定されているが、人数の規定がなければ、更に多くの申請者が殺到したであろうと言われているほど、ギフテッド教育に対する関心も高まっている。香港科技大学では、優秀な若者を育成するために、2008年より米国で有名な「ジョンズ・ホプキンス・センター・フォー・タレンテッド・ユース」と共同で、アジアで最初の「ギフテッド育成センター」を設立し、著名な教授を教員として採用したばかりである。2009年度は、200名の学生を受け入れた²⁵⁾。このように、これまで少なかった大学との提携が増えただけでなく、大学においてもギフテッド教育に力が入られるようになり、欧米諸国の経験を積極的に取り入れるといった動きが見られるようになってきていることから、現在は香港のギフテッド教育の過渡期であるといえるだろう。

本研究は住友生命「未来を築く子育てプロジェクト」の研究助成金によって実施されたものである。また、香港におけるギフテッド教育の歴史については、香港中文大学の呉偉明教授に、発達障害がある子どもに対する支援については、京都大学医学部附属病院精神科神経科の岡田俊院内講師に、ご教示いただいた。ここにあわせて謝意を表明したい。

注

- 1) 「揠苗害慘神童、各地有先例」、『文滙報』、2007年8月24日。
- 2) 鄧澍明著『培育資優新一代』、香港：世界出版社、2006年、127頁。鄧博士は、相対的にみると、中国大陸および台湾のギフテッド教育は、香港よりも成功していると指摘している。例えば、中国大陸では早くから、ギフテッド児に対して「超常教育」と呼ばれる通常教育よりも進んだ教育を受けさせており、中国科学技術大学において、ギフテッド児のために、少年班を設置している；台湾については、ギフテッド児の育成をしなければならないという立法規定がある。
- 3) 梁詠而、吳恩澤主編『小學資優教育發展模式計劃：理論與實踐』、香港：浸會大學出版社、2003年、4頁。
- 4) 香港全域の中学校の該計画への毎年の参加状況は、「参考資料2」を参照。
- 5) 詳細は <http://gifted.hkedcity.net/> の「活動総覧」および「活動内容」欄を参照。「卓越リーダーシップ才能育成」、「卓越数学育成」、「卓越科学育成」および、その他多元的な育成活動については、「参考資料1」を参照。
- 6) 「立法會十四題（培育資優兒童）」、『新聞公報』、2007年11月14日。
- 7) 「中国西部数学オリンピック」、「国際数学オリンピック」、「珠江三角洲物理オリンピック・コンテスト」および「女子数学オリンピック」は中国における全国的な大会であり、「国際物理オリンピック」および「アジア物理オリンピック」は国際的な大会である。
- 8) 香港の学生のパフォーマンスについては、「参考資料3」を参照。
- 9) 鄧澍明著『培育資優新一代』、香港：世界出版社、2006年、57-59頁。
- 10) <http://hkgifted.wikidot.com/giftedstory>
- 11) Reis, S. M. & McCoach, D. B. "Underachievement in Gifted Students," In M. Neihart, S. M. Reis, N. M. Robinson, & S. M. Moon (eds.), *The Social and Emotional Development of Gifted Children* (Waco, Texas: Prufrock Press, 2002), pp.81-91.
- 12) 鄧澍明著『培育資優新一代』、香港：世界出版社、2006年、128頁。
- 13) <http://gifted.hkedcity.net/>
- 14) http://www.hkage.org.hk/b/5/pz_te.html
- 15) 香港電台新聞透視「資優之憂」、2005年6月25日。
- 16) 鄧澍明著『培育資優新一代』、香港：世界出版社、2006年、128頁。
- 17) 政府によって教学が非常に重視されている進学校
- 18) 重点学校と同様に、政府が教学の質を重視している難関大学。北京大学、清華大学、復旦大学などがある。
- 19) 吳武典著「資優教育向誰看齊」、台北：『資優教育季刊』62期、1997年3月、6-7頁。
- 20) 恒吉僚子著『人間形成の日米比較-かくれたカリキュラム』、東京：中央公論社、1992年。
- 21) 香港や中国と異なり、日本で、特別支援教育に積極

的に力が入られているのは、この後者の考え方が反映されているからである。

- 22) 知能研究所についての詳細は <http://www.chinou.com/index.htm> を参照。
- 23) 大学が前例のない状況の下で、どのようにして陳易希少年を受け入れ、育成しているのかということについては、陳易希著『摘星少年陳易希』、香港：天窗出版社、2006年を参照。
- 24) Diane Montgomery, "Double Exceptionality: Gifted Children with Special Educational Need in Ordinary Schools," in Belle Wallace and Gillian Eriksson, eds., *Diversity in Gifted Education* (London: Routledge, 2006), pp.216-224.
- 25) 『蘋果日報』, 2009年12月31日。

〔参考資料1〕:

(i) 「卓越リーダーシップ育成」

一般的なリーダーシップ育成課程とは異なり、この特徴は、卓越したリーダーシップを持つ子どもの特徴とその需要に着目して、彼らのために一連の系統だった育成活動およびコースを提供するものであり、それには個人の全面的な発展、リーダーの知識および技術などを重視することが含まれている；更に、提供されるサービスおよび学習交流活動に、メンバーが参加することによって、周囲の人たちや更に多くの子どもが恩恵をこうむることになると言える。関連する育成活動によって、メンバーは、十分にその潜在的な能力および才能を発揮することができ、「学習する楽しみ、コミュニケーションへの親しみ、責任をもつ勇氣、新しいものを作り出す勇氣」を持ち合わせた優秀な人材となる。

目標：卓越したリーダーシップ能力を持つ子どもの創造力、思考、組織力、問題解決能力を発展させること；彼らのコミュニケーションおよびリーダーシップなどの方面での技術を伸ばし、積極的な学習態度と価値観を育成することによって、個人が持つ情操およびコミュニケーション能力の伸ばすことを促進する；提供されるサービスおよび学習交流活動に参加することによって、メンバーがリーダーシップ能力を発揮させ、国家および社会文化に対する認識を深める；メンバーの社会への責任感および香港のために貢献したいという使命感を強める。

育成対象：リーダーシップ方面で、極めて高い潜在能力を有している、あるいは傑出したパフォーマンスをみせている中学3年生あるいはそれ以上の中学生（香港では中学の学制は3年以上である）；優れた特質および品格があり、責任感および香港のために貢献したいという強い気持ちが現れている者。

育成内容：「特別ギフテッド児育成支援計画」および香港の高等教育機関、社会サービス機関、あるいは教育機関が協働して、「卓越リーダーシップ育成」のメンバーに、様々な形式の育成活動を提供しており、それらには以下のものが含まれている：テーマ別講座およびゼミナール；自我意識を強めるための作業室；リーダー・トレーニング課程；参与観察、実習および実地調査；地元での学習キャンプおよび国内研修；社会サービスと文化の推進および交流；地域

を越えたリーダーシップ・トレーニング。

(2) 「卓越数学育成」

この特徴は、数学の方面で、卓越した潜在能力および傑出したパフォーマンスを表現している子どもの特徴と需要に着目しているものであり、彼らのために一連の系統だった育成活動およびコースを提供するものであり、それには数学の概念に対する認識を強化し、客観かつ論理だった数学の考え方を培い、高いレベルの思考方法と技術を掌握し、個人の情操、人格、コミュニケーション能力を重視し、それらを全面的に発展させることが含まれている；関連する育成活動によって、参加するメンバーは、十分にその潜在的な能力および才能を発揮することができ、「学習する楽しみ、コミュニケーションへの親しみ、責任をもつ勇氣、新しいものを作り出す勇氣」を持ち合わせた優秀な人材となる。

目標：卓越した数学の潜在能力あるいは数学のパフォーマンス、思考能力、組織力、弁証および問題解決の能力を発展させること；メンバーの数学に対する興味を強め、数学に対する正方向の学習態度および積極的な価値観を育成すること；メンバーが数学のトレーニングおよび交流活動に参加することによって、彼らの自己、他人および社会文化に対する認識を更に深める。

育成対象：数学の分野で、極めて高い潜在能力あるいは特に卓越したパフォーマンスを表している中学校3年生あるいはそれ以上の中学生；数学に対して非常に強い学習の興味を示している者。

育成内容：「特別ギフテッド児育成支援計画」および香港の高等教育機関、社会サービス機関、あるいは教育機関が協働して、「卓越数学育成」のメンバーに、様々な形式の育成活動を提供しているが、それらには以下のものが含まれている：大規模なテーマ別講座およびゼミナール；数学に関するトレーニング課程；数学に特化したトレーニング課程（メンバーは早期に大学の学位課程で学ぶ）；数学オリンピック課程；地元での学習キャンプ；数学コンテスト；地域を越えた研修交流活動。

(3) 「卓越科学育成」

この特徴は、科学の方面で、卓越した潜在能力および傑出したパフォーマンスを表している子どもの特徴と需要に着目しているものであり、彼らのために一連の系統だった育成活動およびコースを提供するものであり、それには科学の理論概念に対する認識を強化し、客観かつ謹厳な科学の精神を育成し、批評性、新しいものに対する創造力、多角的な科学思考および科学研究の技術を持つことを培うことが含まれている；個人が持つ情操、科学の価値観と態度を正確に運用および応用することを重視し、全面的に発展させること；関連する育成活動によって、参加するメンバーは、十分にその潜在的な能力および才能を発揮し、「学習する楽しみ、コミュニケーションへの親しみ、責任をもつ勇氣、新しいものを作り出す勇氣」を持ち合わせた優秀な人材となる。

目標：卓越した科学の潜在能力あるいは科学の思考および問題解決の能力を伸ばすこと；メンバーの科学に対する興

味を強め、科学に対する探求心と技術を向上させ、客観的かつ批評性を持ち合わせた研究態度を培うことによって、その科学領域における発展を促進すること；メンバーが科学の探求およびコンテスト活動に参加することによって、彼らの科学方面における能力を更に高め、彼らの潜在能力を十分に発揮させ、科学の発展のために貢献させる。

育成対象：科学の分野で、極めて高い潜在能力あるいは特に卓越したパフォーマンスを表している中学校3年生あるいはそれ以上の中学生；科学に対して非常に強い学習の興味を示している者。

育成内容：「特別ギフテッド児童育成支援計画」と香港の高等教育機関、社会サービス組織、あるいは教育機関が協働して、「卓越科学育成」のメンバーに、様々な形式の育成活動を提供しているが、それらには以下のものが含まれている：テーマ別講座；教養教育課程；科学研修活動；参与観察、実習および実地調査；地元での学習キャンプ；科学コンテスト；地域を越えた研修交流活動。

(4) 「卓越人文学科育成」

この特徴は、人文学分野（歴史、中国歴史、社会教育あるいは総合人文学分野など）の方面において、卓越した潜在能力および傑出したパフォーマンスを表している子どものために、分野を超えた育成課程を提供するものであり、それには以下の3組のシリーズが含まれる：「文化と伝承」、「評価と創作」および「学習と生活」という3組のシリーズによる課程である。各組はともに、特定のテーマとトレーニング・パターンがあり、メンバーの潜在意識および彼らの需要を重視し、メンバーが学習空間を開拓し、高度なレベルの思考およびテーマの探求などの能力を伸ばすことをサポートするものであり、現地および祖国に対する文化的認識を深め、過去について客観的に振り返ることを求める。

目標：人文学分野における優れた潜在的素質を十分に発展させることをサポートし、メンバーが学びへの実践と参与を通して、関連する知識および技能を掌握して結び付け、能力を更に発展させること；メンバーの思考およびテーマについての探求能力を高めること。それには、批評的な思考、観察、創作、評論、文字表現、共同制作、分析、資料の整理能力などが含まれる；メンバーの歴史に対する学び、文化あるいは文学に対する興味を重視し、正方向の学びの態度および積極的な価値観を培うこと；メンバーの視野を広げ、自己、社会および祖国に対する文化的認識を深め、過去について客観的に振り返ることを求める。

育成対象：人文学分野で、非常に強い興味および優れた潜在能力を持ち合わせている中学校3年生あるいはそれ以上の中学生。

育成内容：「卓越人文学科育成」には、3組のシリーズ別課程がある。「文化と伝承」シリーズ課程は、実地学習および文物への探求が主題になっており、メンバーのために、博物館実習の機会が提供される；「評価と創作」シリーズ課程は、香港の文学の発展および創作が主題になっており、メンバーは作家を訪ねて、作家の現地におけるこれまでの活動および創意執筆の実践について、聞き取りを行う；「学習と生活」シリーズ課程で探求するテーマには、映画芸術、

中国文化などがあり、メンバーは映画メディアあるいは哲学といったテーマから、社会文化および人生の価値観について探求する。

選抜されたメンバーは、それぞれの得意分野および興味によって、以下の課程から、1つあるいは複数の課程を選択することができる：

- (1) 「文化および伝承」シリーズ課程（香港歴史博物館と共催）：歴史および文化研修計画；未来の館長養成課程。
- (2) 「評価および創作」シリーズ課程（香港中文大学と共催）：「閲読から執筆まで」の専門家の指導による計画；「思考能力の向上、無限の創意の発揮」のテーマ；香港の文学の足取りを辿るテーマ。
- (3) 「学習および生活」シリーズ課程（香港大学と共催）：映画芸術および社会文化の生命に触れる課程；中国文化のテーマを解析し、生活の知恵に応用する課程；夏季人文学科研修キャンプ。

「参考資料2」：

教育局ギフテッド教育部は、毎年、香港全域の中学校に対して、生徒を推薦し、計画に加入させるように奨励しており、受け入れを許可された生徒は、香港ギフテッド教育学院の講座で学ぶことができる。その詳細は以下のとおりである：

- (1) 香港全域の中学校に通知（9月）：教育局ギフテッド教育部は、文書によって、香港全域の中学校に対して、生徒を推薦し、この計画に加入させるように奨励する。文書には、推薦方法、育成課程の説明書1枚、申込用紙などが添付されている。
- (2) 説明会の開催（9月）：教育局ギフテッド教育部は、説明会を開催して、校長および教師に計画の詳細を説明する。その内容は、推薦の基準、方法、規則、期限、選抜／アセスメントなどについてである。
- (3) 教師による生徒の推薦（9月～10月）：学校の教師は、教育局ギフテッド部が提供した「学校から推薦された者の申込用紙」および生徒を推薦するための関係するハンドアウト（申込み用紙の表にある「ギフテッド児の特徴の表」）に従って、生徒を選別すること；推薦を担当する教師は、生徒と関係のある保護者および他の教師などとも相談し、十分かつ確かな情報を申込み用紙の表に記すこと；申込み用紙に記された情報は、生徒の学習のパフォーマンスを十分に反映している必要があること；学校は、「申込用紙の表」の全ての項目に必要な事項を記入し、教育部ギフテッド部がメンバーを選出できるように、返送すること；学校は「ギフテッド児の選別および推薦指南」を複写し、被推薦者の保護者に配布し、保護者に状況を理解させる必要があること。
- (4) メンバーの推薦および選抜（11月～12月）：学校から推薦された生徒は、独自で教育局ギフテッド部のホームページにアクセスし、関連する全ての選抜活動について、確認をし、選抜のための筆記試験やグループ面接などの活動が開催される日時に合わせて、参加しなければならない；教育局ギフテッド教育部は、以下の情報に基づいて、メンバーを選別する：1、生徒の学習のパフォーマンス（興味、校内および郊外での活動／受賞記録、学習態度および方

法、学業成績など)；2、教育局ギフテッド教育部が行った選別活動における生徒のパフォーマンス。

(5) 結果発表(1月)：教育局ギフテッド教育部は、書面に

よって選別結果を学校に通知し、学校は結果を被推薦者である生徒と保護者に伝えなければならない。

「参考資料 3」:

コンテスト名	1 位 (金賞)	2 位 (銀賞)	3 位 (銅賞)	備 考
2001 年				
中国西部数学オリンピック		1	3	総合成績は 7 位
2002 年				
中国数学オリンピック		1	2	
国際数学オリンピック	1	2	2	総合成績は 24 位
女子数学オリンピック			2	
中国西部数学オリンピック		2	2	
2003 年				
中国数学オリンピック		2	5	
国際数学オリンピック		2	2	優秀賞 1 名, 総合成績は 23 位
女子数学オリンピック			1	
中国西部数学オリンピック		3	3	
2004 年				
中国数学オリンピック	1	1	1	
国際数学オリンピック		2	2	優秀賞 2 名
国際物理オリンピック	1	1	1	優秀賞 1 名, 最優秀新人賞 1 名, アジア地域では総合 4 位
女子数学オリンピック			3	
中国西部数学オリンピック	1	5	2	
2005 年				
中国数学オリンピック	1	1	1	
珠江三角州物理オリンピック	5	1	10	
国際物理オリンピック	1	1	2	優秀賞 1 名
国際数学オリンピック	1	3	1	総合成績は 17 位
女子数学オリンピック			2	
中国西部数学オリンピック	1	5	2	
2006 年				
中国数学オリンピック		2	4	
珠江三角州物理オリンピック		3	14	優秀賞 8 名
国際物理オリンピック		3	1	優秀賞 1 名
国際数学オリンピック	1	3	2	総合成績は 14 位
女子数学オリンピック	1	1	6	
中国西部数学オリンピック	3	4	1	総合成績は 1 位
2007 年				
中国数学オリンピック		2	4	
アジア物理オリンピック				優秀賞 4 名
国際物理オリンピック		1	4	
国際数学オリンピック		5	1	
中国女子数学オリンピック			3	
中国西部数学オリンピック	1	3	3	
2008 年				
中国数学オリンピック		4	2	
珠江三角州および中華名門校 物理オリンピック・コンテスト	3	5	16	
アジア物理オリンピック			1	優秀賞 3 名
国際数学オリンピック		3	1	優秀賞 1 名
国際物理オリンピック	1		4	
中国西部数学オリンピック	1	3	4	
2009 年				
中国数学オリンピック		2	4	
国際物理オリンピック	1	2	2	
国際数学オリンピック	1	2	2	
女子数学オリンピック		3	4	

資料來源: <http://gifted.hkedcity.net/> (表: 筆者作成。2009 年 10 月以前の状況。)